55. 注腸 X 線 検 査 に お け る 前 処 置 の 検 討

湯川胃腸病院 ○ 柏木 秀樹
(Hideki Kashiwagi)
田中外科病院 小川 利政
(Toshimasa Ogawa)

(目的)

注腸 X 線検査における前処置は、一般に Brown の変法が多く用いられている。前処置の中で大きな比重を占める塩類下剤としてマグコロールが使用されているが、服用しにくい欠点がある。

被検者によっては、全量服用できず前処置が不十分に終る場合も少なくない。今回私達は、前処置の改善を目的とし、改良され、服用しやすくなったマグコロール P と無味無臭性のラキソベロンを比較、検討を行ったので報告する。

(方法)

マグコロール P 50g (以下 MP 群) とラキソベロン 10ml (以下 L 群) を各 50 名の被検者に投与し、飲み易さ、副作用、前処置効果、造影効果について比較した。又前処置の方法は表 1 に示す通りに行った。前処置効果、造影効果の判定基準は表 2 に示す通りで、これらを基準に大腸を直腸、S 状、下行、横行、上行の各結腸に区域分けし、医師 1 名、技師 3 名により評価、検討を行った。

表 1 注腸 X 線検査前処置表

前々日	毎食後下剤 (ヨーデル) 2 錠服用
前日	検査食 (1 日 3 食) 毎食後下剤 2 錠服用
(13 時)	コップ 2 杯以上の水飲用
(15 時)	〃
(19 時)	コップ 2 杯以上の水とマグコロール P 50g 又はラキソベロン 10ml 服用
就寝前	坐薬 (レシカルボン) 1 ケ挿入 排便
当日 (起床時)	坐薬 (レシカルボン) 1 ケ挿入 排便

表 2 前処置効果における判定基準

1. 良	好	残渣及び粘液認めず
2. やや良	好	ごく僅か残渣及び粘液あり
3. 普	通	やや残渣及び粘液あり
4. 不	良	残渣及び粘液多い

表 3 造影効果における判定基準

1. 良	好	粘膜の微細構造が描写されている
2. やや良	好	粘膜が描写されている
3. 普	通	Ba 付着やや悪いも診断可能
4. 不	良	Ba 付着が悪く診断不能

図 1 飲み易さ、副作用の比較

図 2 前処置効果の比較

図 3 造影効果の比較

(結果と考察)

飲み易さについては図 1 に示す通り MP 群で飲みにくいと回答した被検者は、18%を占めているが、全員全量服用している。副作用は腹痛を訴えた被検者は、MP 群で 6%、L 群で 4%を認めたが、悪心、嘔吐、睡眠障害を訴えた被検者は認めなかった。前処置効果、造影効果は、図 2、図 3 に示すように各結腸ともに、良好、やや良好を合わせると両群間に有意差は認められなかった。良好のみを比較してみると前処置効果、造影効果において MP 群がすぐれている。又ラキソベロンの単独投与も十分可能である。